住民説明会要旨

1　説 明 会　新処理施設等の整備に関する住民説明会

2　開催日時　令和５年２月25日（土）午前10時から正午まで

3　開催場所　一関市総合体育館ユードーム

4　参 加 者　16人

5　事 務 局

石川隆明副管理者、佐藤正幸事務局長、吉田健総務管理課長、
菅原彰一関清掃センター所長、菊池弘総務管理課施設整備係長、
石川勝志総務管理課主任主事、
一般財団法人日本環境衛生センター４名（以下、日環センター）

6　説　　明

⑴　前回までの住民説明会の内容

⑵　施設整備基本計画の策定

⑶　エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の検討状況

⑷　マテリアルリサイクル推進施設整備の検討状況

⑸　一般廃棄物最終処分場整備の検討状況

7　あいさつ

本日の住民説明会は新処理施設等の整備に関する住民説明会である。新処理施設というのは一般廃棄物の焼却施設のことで、新処理施設とあわせてリサイクル施設の整備を検討している。もう一つは最終処分場である。いろいろな過程を経て処理されたごみを安定的に処分する施設である。これら３施設の整備を検討しており、令和元年12月に第１回目の住民説明会を開催してから今回で８回目の住民説明会になる。施設整備について、住民の皆様にしっかりと説明して理解を深めたい、いろいろな住民の皆様の声を組合に寄せていただきたいという思いから、このような説明会を開催している。これまで、組合では、土地所有者と見込まれる方を対象とした説明会、候補地の周辺の自治会の皆様を対象とした説明会、そして本日のような、どなたでも参加いただける説明会の大きく３種類の説明会を開催しており、住民の皆様とのこのような場でのやりとりが大切であるという思いがある。

施設整備の近況としては、昨年９月に新最終処分場の候補地である千厩地区住民を中心とする住民団体から組合に対して候補地を見直してほしいという署名を頂戴した。一方、組合議会には請願があった。議会では請願について審議し、最終的には不採択となった。組合では今後も「千厩町千厩字北ノ沢ほか」というエリアで事業を進めていきた

いと正式に表明をした。新処理施設とリサイクル施設については、「弥栄字一ノ沢ほか」というエリアを候補地として計画を進めている。

昨年３月に施設整備の基本計画をとりまとめたので、本日はその基本計画のほか具体的にどのようなことを検討しているか説明をさせていただく。限られた時間であるが、率直なご質問や意見をお願いしたい。

８　説明内容

⑴　前回までの住民説明会の内容

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

⑵　施設整備基本計画の策定

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

⑶　エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の検討状況

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

⑷　マテリアルリサイクル推進施設整備の検討状況

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

⑸　一般廃棄物最終処分場整備の検討状況

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

９　質疑応答

【エネルギー回収型一般廃棄物処理施設について】

参加者　エネルギー回収型一般廃棄物処理施設というのは、施設で発生する熱を施設で使うという意味でよいか。候補地の場所がわからない人は、施設の熱を有効活用して一般家庭等に供給できると勘違いするのではないか。エネルギー回収型という意味は、処理施設や農業利用とは別に、新しく熱を利用する施設を作って熱を供給するという意味でないことを確認したい。

事務局　現在稼働している処理施設では、施設内で熱のみを利用しており、発電はしていない。エネルギー回収型という意味は、新処理施設に発電設備を設け、施設で使用する電気を施設内で賄える仕組みとしたいという意味である。賄いきれない分については買電をする。余った電気は売電をする。それにより、処理費用の節減、住民の皆様の負担の軽減につながると考えている。また、余熱の活用策は検討中である。

参加者　最近、岩手県宮古市で市民電力会社の実証が始まったと報道されていた。宮古市の場合は太陽光発電のようだが、市と一緒に電力会社をつくって電気を販売しているようだ。今のシステムで言えば、余った電気は電力会社に売ることが一番簡単である。エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の発電設備と市の太陽光発電

をまとめて電力会社をつくることも検討してみてはどうか。

事務局　売電の具体的な方法は決まっていない。意見として頂戴し、構成市町に情報共有させていただく。

日環センター　エネルギー回収型一般廃棄物処理施設は電気を地元で生産し、余った電気は売るため、地産地消といえる。ＰＴＳ（小規模電力会社）をつくることはコスト的にはメリットがあるが、供給量と需要量のバランスをとることが難しく、課題がある。課題を乗り越えながら模索する必要がある。

【マテリアルリサイクル推進施設について】

参加者　マテリアルリサイクル推進施設についてもう少し詳しく教えてほしい。

事務局　要はリサイクル施設のことである。現在はビン、缶、ペットボトルなどを一関と大東の両清掃センターで収集し、リサイクル業者に処理を依頼している。処理を依頼できるように作業する施設と捉えていただきたい。

日環センター　用語の解説となるが、リサイクルには二つの方法がある。エネルギー回収型一般廃棄物処理施設はエネルギーとしてリサイクルするサーマルリサイクルと呼ばれるものになる。しかしこのリサイクル方法は最終手段であり、まずは物質としてリサイクルしようするのがマテリアルリサイクルである。マテリアルリサイクルには限界があるため、物質として再利用できないものはサーマルリサイクルをするという流れである。

【一般廃棄物最終処分場について】

参加者　報道を見ると、反対している地区の方はまだ納得していないようだが、このまま進めて問題ないのか。問題の解決方法があれば聞きたい。

事務局　新最終処分場についてはさまざまな意見を頂戴している。組合が最終処分場とはどのような施設かを説明することにより、最終処分場に対する考え方が変わる方もいるのではないかと考えている。説明会で住民の話を伺うと、まだ不安があるということである。生活環境影響調査などを行い、調査結果を説明することで不安の解消につながるのではないかと考えている。

参加者　千厩町民のほとんどが反対している状況で、これからも反対の声が大きくなると予想される。青年の会という団体を立ち上げ中心で活動している。議員や管理者と意見交換をさせていただいたが、民家への配慮が排除されており怪しい。安全性に対する不安よりもこのプロセスで良かったのかという不安がある。自分は千厩は魅力のある地域だと思って活動してきて、これから盛り上げていこうというときに、民意を排除したこのプロセスを知ってショックを受けている。11月の説明会の内容も加味されずに請願も不採択になった。このプロセスは極端に住民

合意が排除されているように感じる。他の地域のプロセスも調べたが、最終処分場までの間に民家が何軒あるか、通学路の有無、自治会の理解度が点数化されている。田舎の課題が多くあり、住民に寄り添おうという時代に逆行している。民意を点数化すれば民意を反映したと言えるし候補地決定の説得力にもなる。最終的には千厩字北ノ沢ありきだったのではないかと考えてしまう。行政の都合で同じようなことが起こらないように、これからもＳＮＳで発信していきたい。また、なぜこうなったのか今後も分析していく。

灰の埋め方について質問するが、後ろに置いてあるサンプルのように灰はすべて固形化して埋めるのか。

日環センター　発生する灰は２種類ある。ストーカ炉で燃え残った灰を主灰という。主灰にはそれほど毒性があるものではないため固形化せずに埋める。一方、ガスに含まれる灰を飛灰という。飛灰には低融点の金属が含まれるため、特別管理廃棄物と位置付けて固形化処理をしている。ヨーロッパでは主灰を埋め立てせずに道路の路盤材に使うなどしてリサイクルしている事例もある。組合では主灰のうち一部をセメント化してリサイクルし、残りは埋立処理をしている。

参加者　主灰のリサイクルは今後も行うのか。

事務局　引き取っていただける量や期間は受け入れ先次第であるため、断言することは難しいが、今後もリサイクルを続けたいと考えている。

参加者　固形化していない灰を埋め立てして飛散しないのか心配である。リサイクルしない灰はサラサラのまま最終処分場まで運搬して埋めるのか。全ての灰が固形化されていたら良いのにと思った。

事務局　灰には湿気を含んでいるため、サラサラではない。基本的には風が吹いても舞い上がらない程度の湿気を含んでいる。そのような灰をトラックに積んで蓋をして運んでいる。運搬の途中で飛散する心配はない。

参加者　湿気をもたせる過程を詳しく教えてほしい。

日環センター　ダイオキシンの発生を防ぐため、850℃程度の高温でごみを焼却する。燃え残った灰も大変熱いため水につけて急激に冷やす。そのため必ず湿気を含んだ灰になる。

参加者　新処理施設からの熱はいろいろ活用ができ、活性化にもつながると思うが、最終処分場は活用できるのか。最終処分場を利用したまちおこし、活性化につながった事例はあるのか。オープン型の処分場で緑地帯は除いて教えてほしい。また、今考えている利用方法はあるか。

事務局　最終処分場の跡地を活用している事例はある。埋め立て中は使えないが、跡地

には公園やスポーツ施設、市民菜園などとして人が集う場所となっている例は全国にある。

日環センター　例えば、有名なデザイナーがデザインしたモニュメントを飾った公園にするとかキャンプ場にするという事例もある。

参加者　跡地利用ではなくて、埋立期間中にできることがないか確認したい。

日環センター　搬入車両があるときは難しいが、最終覆土してからは市民農園として利用できる。住民の方に少しでも喜んで利用してもらえるような対策を講じていくことを検討していく。

参加者　このまま進むとしても、最終処分場が建設される地域に少しでも希望を見出したい。新興住宅が建つなど、これから盛り上がっていくところだった。焼却施設は施設の使用期間に熱を活用した利用方法があって羨ましいと思う。埋め立て期間中に最終処分場を活用できる方法はないのか。

事務局　埋立期間中に埋立地を利用することは難しい。現在も組合管内に３か所の最終処分場があるが、施設使用期間中の利用は難しかった。今回は最終処分場の手前の平地を緑地帯にするなど、施設そのものではないがエリアとして地域住民が利用できるような場所にできないか、地域の振興につなげることができないか検討している。地域住民と話をさせていただきながら決めていきたいと思っている。

日環センター　自分が携わった経験からお話しさせていただく。状況を想像したときに千厩町とは違うと感じることもあるかもしれないが、想像力をもって聞いてほしい。東京の広大な処分場ではいくつかの区画に分けて埋め立てをしており、埋め立てが終わったところから活用している。あるところはゴルフ場、あるところは木を埋めて有名な建築家の方と地域住民と一緒に森を建設した。その脇にはヨットのボートレース場を建設した。そこではオリンピックが行われた。全国にはそういう事例がある。埋立後には地域住民が話し合って活用しているところがある。行政が何をしたいかではなく、地域住民、若い方がどんな地域をつくっていきたいかである。最終処分場を起点にしてビジネスを起こす感覚である。想像力がないと事業展開にはつながらず、行政の力業では難しいものである。現在の状況を受け止めてどう前に進むかを考えると、皆の想像力を結集することが必要であると思う。

参加者　先日の議会である議員が千厩に企業誘致をして活性化させればいいのではないかと話していたので、行政側で何か良い案があるのかと思い質問をした次第である。

【全体】

参加者　狐禅寺に施設を建設しようとした苦い経験がうまく活かされていないように感じた。出だしでつまずくと最後まで揉める。あの頃から10年経つが今も元のコミュニティには戻っていない。過去に苦い経験をされた職員がいるのだから、その経過を学習して今後に活かしてほしい。また、ごみがどう処理されていて、最終処分場がどんな施設なのか分からない人が多いのではないか。人口が減っているのになぜごみが増えているのかを考えたら分かる話である。集積所に出されているごみを見ると、分別されていないごみがある。「資源ごみは全部可燃ごみとして収集してくれるから良いではないか。ビンも缶も全部不燃ごみだ。」と考える人もいる。実際その２種類があれば用は足りる。分別収集は最近始めたことではなく昔から取り組んでいることなのに、未だに分別が徹底されていないのは問題だ。現在稼働している施設を見学してもらうなどの取組が必要である。見学に行ったことがある人は何回も行っている。見学したことがない人に向けて呼びかけを強化してほしい。真夏にマスクをして頭巾をかぶって汗水流して手作業で分別している姿を見れば、真面目に分別しなければと思う人もいるだろう。例えば一家庭３年に１回や５年に１回、施設を見学することを義務化してはどうか。一関市、平泉町に転入した人を対象にしてもよい。そういう方法も検討してほしい。

副管理者　苦い経験というのは新たな施設を狐禅寺に整備しようと計画したときの話だと思うが、狐禅寺の場合は地域振興の観点から建設場所を初めから狐禅寺に決めて進めた。地元の皆さんと取り交わした約束などもあり、建設することはできなかった。その経験を活かして今回は建設場所を先に決めるのではなく、建設場所を選定するためにはどういった条件で選定するべきか、そしてどういった施設をつくらなければいけないかを住民説明会でお知らせし、説明会でいただいた意見は反映できるか検討して、それを選定条件に反映して選定してきた。これまでいろいろな会場で70数回の説明会を開催し、一つ一つ積み重ねて進めてきた。施設見学会については具体的な提案をいただき大変ありがたい。これまでも何度か施設見学会を開催してきた。かなりの数の説明会を開催し、毎回、広報を全戸配布してお知らせしていても、行政の情報が住民に届いていないことが課題である。どのような方法をとればよいか、現在も考えているところである。ただ、これまでも、物事を成すときに住民と行政がやりとりをしなければ住民理解は進まないという考えを基にして進めてきた。ただし、まだ不足しているので、これからも説明をしていく必要があると考えている。

参加者　千厩地区で配布したチラシを配布させていただく。チラシを作製した経緯としては、千厩字北ノ沢は広く、建設場所がどこか分かっていない人が多い。北

ノ沢の奥の方だと思って騒いでいなかった。広報に掲載された地図を見たが、場所が明確に分からなかった。施設からほぼ１km以内に中学校、高校、千厩駅、千厩病院が入っていることがわかった。11月の説明会では候補地の近くに河川の上流があることから、雨が降ったら町のほうに流れてこないのかという声が多くあった。活用できるのは埋立てが終わった30年後のことだ。過疎化していく千厩町にどう人を集めるかを考えてほしいと思っていたところにこの施設の話であったため、千厩町に未来があるのか不安になる。デメリットしか見当たらないが、メリットはあるのか。どうして土地から決めたのか疑問である。もしくはもう少し、１kmから２km先に候補地を移動させてほしい。

事務局　最終処分場を建設する際、どういう場所に建設するのがよいか、大学の先生方に客観的に選定いただいた。急傾斜地や指定区域を除き、評価項目を加えて絞り込みをした結果、「千厩字北ノ沢ほか」を最適地として決定した。本来は埋立地の整備だけでよいのかもしれないが、その手前の敷地を地域振興につながるような活用ができないか提案している。

参加者　狐禅寺のときは覚書があったのにも関わらず進めてしまい、過激な反対があったという過去がある。その過去の反省をふまえると、住民と真っ向から勝負したらいつまでも埒が明かないし、予算もつかったし、引き返せないので止めよう。そのため、今回は土地取得の容易性を重視し、民意を排除することに至ったのではないか。千厩に建設しないことになると、どこを選定しても同じことが起こると議員は言うが、住民と話をしていないのにおかしい。最初からつまずいていると感じる。先日の説明会で住民合意や民意がどう反映されているのかを質問したら、説明会をたくさん開催したと言うだけだった。説明会は回数ではなく質である。どのくらいの民意が反映されたのか私たちには分からない。そういう回答しか返ってこなくて不安を覚えている。最後に質問であるが、先日の平泉町での住民説明会で事務局から住民合意をしていないことはないという発言があったと聞いたがその中身を伺いたい。

事務局　土地取得の容易性を重視し、民意を重視していないという話であったが、我々はそのようには考えておらず、そのような説明はしていない。もしそう取られている部分があるのであれば訂正をさせていただく。土地取得の容易性は評価項目の一つであるがそれを重視したということはない。住民の皆さんとも説明会の中で話し合いをしている。民意を蔑ろにして進めてきたとは認識していない。

参加者　大変中身の濃い話を伺ったが、どうしても最終処分場はマイナスイメージが強い。一つだけ最後にお願いしたいのが、生活環境影響調査のスケジュールは具体

的にイメージして工程表を作っていると思うが、もう少し前倒して生活環境、住民の生活に悪影響がないというところを具体的に説明すれば、ある程度中身の理解ができて合意形成に繋がるのではないかという意見を述べさせていただく。

10　担 当 課　総務管理課